

日本を知りたい、日本人へ

時代は日本ブーム。

世界中から年間3000万人もの人々が日本を訪れています。

東洋の島国の特異な文化に世界は夢中です。

日本といえば？と聞かれたら、

あなたは何と答えますか？

ポーッと生きているわけではないけれど、

国境を越えた交流が進むにつれて

各地にあった固有の文化は薄れていく。

私たちは知らぬ間に、日本の文化を知らない日本人に

なっていないでしょうか。

今から111年前、

明治時代の日本を旅したドイツ人作家は、

日本三景・天橋立のたもとで

元伊勢籠神社の葵祭と出会いました。

そこで彼は日本の信仰を見た。

「この光景を忘れられない」。

驚きを込めた紀行文には、

素顔の日本人が映っています。

元伊勢籠神社は、

伊勢神宮にまつられる豊受大神のふるさと。

4月24日には鎮座1300年の記念祭を迎えます。

ここは稲作伝来の地。

天橋立・葵祭は、田んぼを耕し、恵みを願う人々が

代々受け継いできました。

太陽に感謝を込めて、手をかざす。

剣の舞は祈る心と呼び覚まします。

外国人を惹きつける「日本の素顔」がここにある。

海の京都は日本の源流。

あなたも一緒に出かけませんか？ 日本を見つける旅に。



鎮座千三百年記念 天橋立・葵祭

元伊勢籠神社



丹後一宮

4月24日(水)

裏面に詳細

葵祭の情報は [あまのはしだてねっと](#) 問い合わせは天橋立観光協会(☎0772-22-8030)へどうぞ。

天橋立へは高速バスで

元伊勢籠神社へは天橋立駅バス停で下車後、天橋立観光船が便利です



府中をよくする地域会議

ぼくは最もすばらしい時を宮津ですごした。

今から111年前の春、ドイツの作家ベルンハルト・クラマンは京都・宮津の天橋立を旅した。松並木の先にある元伊勢神社の方からは太鼓の音が聞こえてきた。この日は葵祭。日焼けた青年は刀を地につき、左手を太陽にかざして天を仰いだ。恵みを与える光の神へ感謝を込めた剣の舞。その姿は、祭りが何のためにあるのかを表している。

太陽を仰ぎ「神々よご覧あれ」

ハチマキを巻いた青年は柄の長い刀を操り、その上高く跳びはねながら空を切る。石畳にまかれた砂を足袋で巻き上げながら悠然と歩く。そして、直立不動で頭上の太陽を見上げ、真つすぐに左手をかざした。「光に向かってあいさつするのだ。神々よご覧あれ、あなたにささげるこの舞を」。クラマンは天を仰ぐ青年の心を、そんな言葉で表現した。

剣の舞は「太刀振り」と呼ばれる。幼児から少年、最後は師匠に指名された選り抜きの青年が「真剣」を振る。代々受け継がれた鋼の刀は重く鋭い。神は神輿に乗って旅をすること、恵みの力を新たにすると信じられている。太刀振りはその神輿の先導役として神の道を切つて清め、神が神社に戻った後には「神の再生」を喜ぶ舞を捧げる。「童、少年、若者たちが列になり、腕や脚がそろって動く。剣は一斉に光る。この光景を僕は忘れることができない」。

勇壮な舞を目の前で見たくないのである。クラマンは案内人に交渉を頼み、宿屋の庭に通された。菓子が振る舞われ、酒がつかれる。庭は見物人で一杯になり、太刀振りを待つ人々は彼の方を見て喜んでいる。すると驚くことに、宿にあった立派な庭木

聖地が受け継ぐ祭り

が突然ノコギリ

で切り倒されはじめた。太刀を振るのに邪魔になるからだという。舞が終わると、宿屋の主人は額が地面につくほどに丁寧なお辞儀をして言った。「あなたのおかげで舞が演じられ、それを見に神様が来てくださった。本当にありがたい」。主人は心の底から喜んでいて、太刀を振る人も、それを見守る大勢の人も、それぞれに見えない「神」を身近に感じて一つになっていた。それは日本人が受け継ぐ信仰心と言えよう。地域総出で祭りを楽しむことは、和を保ち助け合つて田畑を耕すために欠かせない時間だったのだ。

天橋立は神話の舞台

天橋立は神話の舞台。日本最古の歴史書である古事記では、国生みの神のイザナギ、イザナミが天浮橋に立ち、矛で混沌とした大地をかき混ぜて島をつくつたと記されている。天浮橋とは天橋立のこと。天橋立から丘を登った先にある眞名井神社には大きな岩があり、古代信仰の拠点として人々は手を合わせてきた。一部には弥生時代の遺跡もある。京都北部の丹後半島は稲作伝来の地。籠神社の主祭神はコメの種を授かった彦火明命で、その種を授けた神は豊受大神。恵みを受ける神として伊勢神宮三重県にまつられているが、元々は籠神社の奥宮、眞名井神社にいたと伝わる。太陽の女神・天照大神が伊勢神宮にまつられた後、豊受大神を指名して呼び寄せたとされる。だからここは「元伊勢」。日本に恵みをもたらす神のふるさとだ。

天橋立は日本の聖地。元伊勢籠神社の葵祭は、古代から続く祈りの歴史の延長線上にある。ここが聖地であり続けたのはなぜか？ 明治初期までは、農業機械も食料保存に欠かせない冷蔵庫もない時代が続いた。稲は冷害に弱く、日照不足は飢饉を引き起こす。気候が乱れると人は命の危機にさらされた。籠神社の海部穀成官司は「自然の災いから逃れて恵みを得るには神に助けをもらうしかない。家族が飢えずに厳しい冬を越えるために、太陽に恵みを祈る祭りでしよう」と話す。

クラマンが見た明治時代の日本人は、太陽を仰いでいた。その心は古代から変わっていないのだから。籠神社は4月24日、鎮座1300年の記念祭を迎える。豊受の神に恵みを授かった人々は田畑を受け継ぎ、今も太陽に手を伸ばして祈っている。光と恵みへの感謝を込めて、何度も手をかざす。

眞名井神社

元伊勢籠神社の奥宮。社の奥の巨岩は古代の祭祀場だった磐座。国生みの神・イザナギが天降ったという神話がある。豊受大神と天照大神が伊勢神宮に鎮まる前に4年間まつられていたとされる。無休 参拝無料 ☎0772-27-0006



天橋立

古くは雪舟の水墨画にも描かれている。3.2キロに及ぶ白砂青松の砂浜を歩くと潮騒が心地よく、ウォーキングの聖地としても人気を集めている。

かつては「藤祭」

田植えを前に藤の花が盛りを迎える時期に営まれてきた。藤が持つ力を取り込もうと神職が冠に藤の花を差していたことから藤祭と呼ばれた。京都・賀茂神社とは古くから交流があり、藤祭を葵祭と呼ぶようになったという説がある。

日本最古 国宝の系図公開

神話から人の時代へとつながる日本最古の系図。4月23日から5月6日まで京都府立丹後郷土資料館で10年ぶりに公開され、聖地の歴史を間近に感じることができる。9:00~16:30 月休 200円 ☎0772-27-0230

9:00 神楽

10:30 太刀振り

11:30 御神幸

12:50 還幸祭

12:50 大神楽

12:50 太刀振り

14:30 太刀振り



神輿の出発を前に獅子の舞を奉納する。地元では総じて神楽と呼び、神の道を先に進んで清めておく役割も果たしている。



神門の前では神が神輿に乗って出発することを祝う太刀振りが奉納される。神門に入った拝殿周辺(写真)では大獅子が暴れて神域を清める。



神を神輿にうつし旅に出る。写真は昭和30年代の様子。担ぎ手不足などから大神輿は休眠していたが、鎮座1300年を機に神輿を修復。60年ぶりに今年復活する。



神輿行列は神社の周りを一周し再び本殿へ。神は旅することで生まれ変わり、恵みを授ける力を新たにすると信じられている。神輿の渡御は「滅びと再生」を意味する神事だ。



神職が祝詞を上げて神を迎えている間、神門前では生まれかわった神を祝福する神楽「六返返し」が奉納される。



太刀振りの一行が神輿行列を先導し、祈りがしっかり届くようにと道を清める。神輿行列が神社に戻ると神の再生を喜ぶ舞を奉納する。



神輿が戻り他の奉納が終わると「チャッハイ」の合図で行進が始まる。神門前で刀を跳び越える見せ場では「よう跳ぶもつと跳べ」と声がかかる。

丹後最古の祭り聖地巡礼の旅
コースNo.4163
2名1室 お一人様24,800円
1名1室 29,800円
4月23日(火)~24日(水)

23日
大阪梅田8時発=宮津・智恵寺着(日本三大文殊)=府立丹後郷土資料館で国宝の海部氏系図を見学=元伊勢籠神社(丹後一宮を正式参拝)→奥宮眞名井神社(古代信仰の拠点だった磐座などを案内人と参拝)=宮津(泊)

24日
元伊勢籠神社・葵祭(平安時代から続く祭礼。若者による剣の舞「太刀振り」や60年ぶりに復活する神輿などを見物)=宇良神社(浦島太郎ゆかりの古社で宝物拝観)=梅田19時ごろ着

■食事 朝食:1回/昼食:2回/夕食:1回
■宿泊 Hotel & Resorts KYOTO-MIYAZU(宮津ロイヤルホテル・洋室) ■最少催行人員 15人 ■添乗員が同行します ■買切バス会社名 寝屋川バスまたは同等クラス ■記号 =買切バス...徒歩 ※詳しい旅行条件を記した書面をお渡ししますので、ご確認の上お申し込みください。旅行代金に消費税は含まれております。

毎日新聞旅行大阪 ☎06-6346-8800
10~18時(土・日・祝休業)
旅行企画・実施 毎日新聞大阪開発株式会社 〒530-8283 大阪市北区梅田3-4-5
観光庁長官登録旅行業 第704号 JATA正会員 旅行業公正取引協議会会員
【総合旅行業務取扱管理者/菅原真・太田正人】